

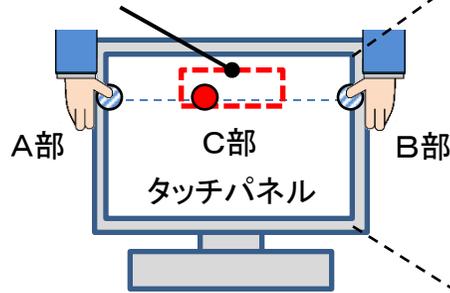
女川原子力発電所における火災発生情報の誤発信事象の原因と対策

【事象発生 の 推定原因】

- ① ディスプレイ交換時、当該装置の誤作動を防止する観点から、ディスプレイの背面に接続されている電源ケーブルをディスプレイ本体から外すため、ディスプレイの向きを変えようとした際、タッチパネル式画面の縁(下図A部およびB部)に両手で複数回触れた
- ② 火災発生 の 情報を発信する画面上のボタンには直接触れなかったものの、タッチパネル機能の特性(下図※参照)により、火災発生 の 情報が誤って発信された

【ディスプレイイメージ】

火災発生情報を発信するボタン



※当該ディスプレイに採用しているタッチパネルは、画面の2箇所(A部、B部)を同時に触れた場合、2箇所を結んだ直線上にあるボタン(C部)が作動することがある

【画面遷移イメージ】

(画面1)



画面の縁に同時に触れたため、「本番」ボタンが作動
(画面2に遷移)

(画面2)



その状態で、画面1の「本番」と同じ位置の「火災発生一斉通報」ボタンが作動
(画面3に遷移)

(画面3)



再び、画面の縁を同時に触れた際、「送信」ボタンが作動し、誤発信に至った

⊙ : 意図せず触れた箇所

● : 画面上のボタンが作動した箇所

【再発防止対策】

- 当該装置の点検時における誤操作を防止するため、電源を予め切ったうえで点検作業を行う。また、電源を入れたまま作業を行う必要がある場合(時刻調整等)は、通信用のケーブルを予め引き抜くなど、外部との通信ができない状態で行う
- 当該装置の平時(待機状態)における誤操作を防止するため、当該装置の改造(カードキーによる認証機能追加、画面内ボタン位置の変更等)を実施する